

## IV うちどくをやってみよう

### 1. 家読のやり方

家読は家庭読書の略語ですが、伊万里市での家読のやり方として、2つのルールを設定しています。

- ①親子（家族）で本を読む
- ②感じたことを等を話し合う

この2つのルールを基にして、それぞれ家族の環境に合わせて家読の取組を行います。子どもの年齢に応じてやり方を変えることもできます。例を挙げると、

#### ①自分で本を読むことができない年代には、

- ・お父さんやお母さん、お祖父さんやお祖母さんなど大人が絵本を読んであげる読み語り（読み聞かせ）を行い、一緒に絵本を楽しむ時間を持つ。また、お兄さん、お姉さんが読んであげてもいいですね。
- ・読み語りの時間を決める（寝る前の時間がオススメです）

#### ②自分で絵本を読めるようになったら、

- ・絵本を読む時には、周りの家族はテレビを見たり、ゲームをするのを止める。（ノーテレビ・ノーゲームデーなどの取組）
- ・家族で読書を行う時間帯を決めて、それぞれ好きな本を読み、団らんの時間に感想を話す。
- ・子どもが読んだ絵本を家族も回し読みする。（リレーうちどく）

③家族で同じ時間帯に読書ができない場合は、

- ・子どもが読んだ本を後から家族が読む。感想はメモや手紙で伝える。

④家族が離れている場合は、

- ・自分が読んだ本を、はがきや手紙に書いて家族に薦める。  
(家読ゆうびん)

## 2. 家読には絵本をお薦めします

うちどくは家族が同じ本を読むことから、あまり時間をかけずに読むことができる本が適しています。中でも絵本は以下の理由から家読に適していると言われています。

- ①絵があるので、読み語りに適している。
- ②絵と文の両面で話ができる。
- ③教育的で感動的な内容の作品が多い。
- ④15分程度で1冊の絵本を読み通すことができる。

絵本は短いストーリーの中に物語のエッセンスが凝縮されているものが多く、また、文字が読めなくても絵だけで理解できる場合もあります。

次に、家読推進プロジェクトが推薦する「リレーうちどく」の解説を掲載しますので、うちどくを行う際の参考にしてください。

たくさんの絵本を読んで、家族みんなで話をしてみましょう。